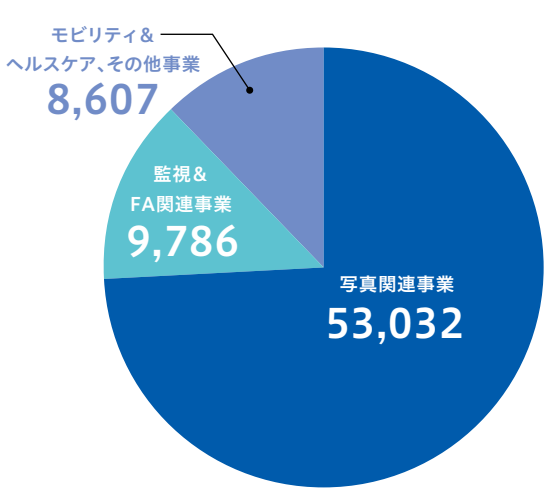
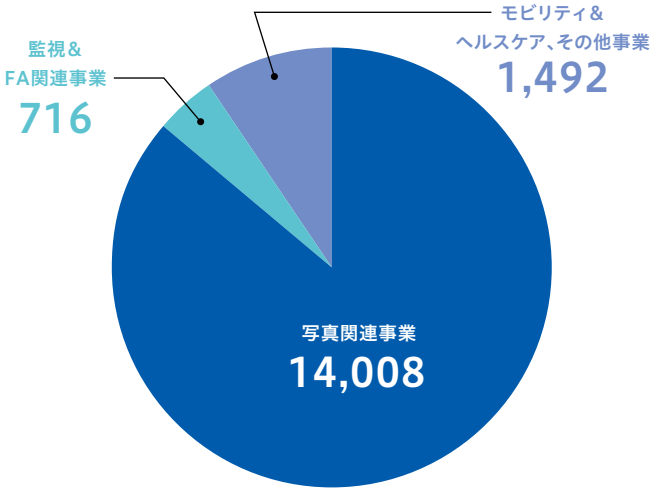
| 事業戦略 |

BUSINESS STRATEGY

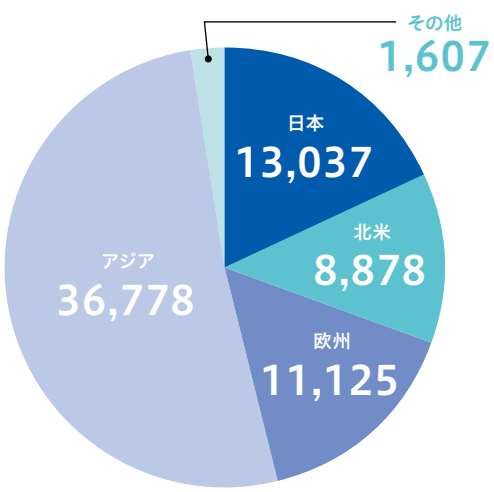
事業別売上高
（単位：百万円）



事業別営業利益
（単位：百万円）



地域別売上高
（単位：百万円）



写真関連事業

「人々に感動を、心を豊かに」をテーマに、世界中の人々にレンズを通じて写真を楽しんでいただくために、ユニークな焦点距離を持ったレンズなど今までにない製品をユーザーの皆さまに提供し続けていきます。また長年にわたり培った技術と経験を活かし、技術の革新を続け、顧客の皆さまに驚きと感動を与えられるような画期的な製品を提供します。

技術と製品

技術
Technology

光学開発技術
レンズ加工技術
コーティング・フィルタ技術
アクチュエーター技術

OEM製品

自社製品

- **17-50mm F/4 Di III VXD (Model A068)**
  レンズ交換することなく、自然風景からスナップポートレートまで幅広い撮影を可能にする広角ズームレンズ
- **35-150mm F/2-2.8 Di III VXD (Model A058)**
  細やかな表情や仕草を繊細に描く、人物撮影に最も相応しいF2スタート、大口径ズームレンズ
- **28-75mm F/2.8 Di III VXD G2 (Model A063)**
  優れた光学性能、高速AF、軽量コンパクトなフルサイズミラーレス用大口径標準ズーム

＋

世の中のニーズ

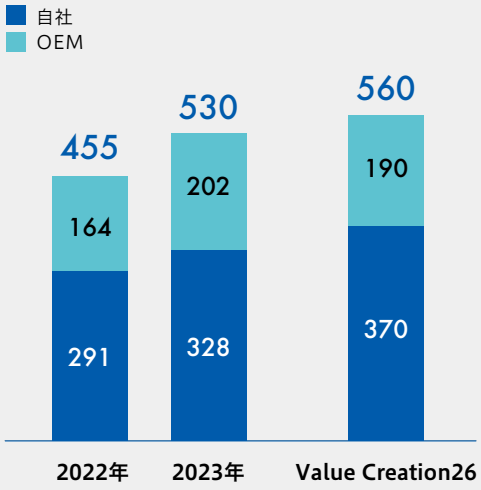
「人々に感動を、心を豊かに」をテーマに、中核事業としての高収益創出を向上させ安定的な収益確保を目指します。昨今はフルサイズミラーレスカメラへのシフトにともない、交換レンズにおいても高性能・高画質が求められています。

業績サマリー

売上高が前期比16%増となる約75億円の増収となりました。自社ブランドではソニーEマウント、富士フイルムXマウント、ニコンZマウントそれぞれに新製品を投入し、ミラーレス用交換レンズのマウント展開を加速させました。また、OEMについても上期は半導体不足の影響によるカメラメーカーのボディ供給制約に起因し、交換レンズ出荷が例年以上に進んだ反動減により大幅減収となりましたが、下期においては堅調な市場推移にともない大幅増収へと反転し、通期でも2桁増収となりました。

売上高

（単位：億円）



次期ビジネス分野創出に向けた取り組み

昨今は静止画だけではなく、動画の撮影を楽しむミラーレスユーザーも増加していることで、静止画と動画の双方で使い勝手がよく、レベルの高い撮影ができる交換用レンズが求められており、高単価化が進んでいます。当社においては、多くの顧客からニーズをヒアリングし、その結果を企画、開発、製造にフィードバックしています。そして70年以上にわたり培った光学技術を駆使し、また新しい技術を取り入れることによって顧客の要望に応えることができる製品を提供していきます。

前期の成果と今後の戦略

写真関連事業では、中期経営計画「Vision23」の1年目である2021年に、売上高、営業利益率ともに目標値を2年前倒しで達成、「Vision23」の2年目である2022年には、売上高、営業利益、営業利益率の過去最高を更新、さらに「Vision23」の最終年である2023年は売上高530億円、営業利益140億円の増収増益となり、過去最高益を2年連続で更新しました。製品投入面でも、自社ブランドのミラーレスカメラ用レンズは2020年末の8本から2023年末の25本となり、3倍以上のラインアップ数を達成しています。

「Value　Creation26」の1年目である2024年は売上高545億円、営業利益27%台、最終年である2026年は売上高560億円（2023年比106%）、営業利益27%台を確保し、毎年の増収増益を目指します。さらに自社ブランドの魅力ある新製品を毎年6～7機種を発売することを予定しており、シェア拡大を目指します。

新技術または今期のトピックス

一眼レフカメラからミラーレスカメラへのシフトにともない、スチール撮影はもちろん動画撮影の需要も高まっています。当社ではお客様に様々なシチュエーションでの撮影を快適に楽しんでいただくため、コンピューターやスマートフォンを使用してコネクターポート（端子形状＝USB　Type-C）を搭載した当社レンズのカスタマイズや、ファームウエアのアップデートを行える専用ソフトウエアを提供しています。

今後も様々な撮影シーンにおいてお客様のトータルサポートを実現できるよう、要素技術開発に取り組んでいきます。

監視＆FA関連事業

監視＆FA関連事業は「安心・安全な社会づくりに」をテーマに、社会の眼となり、安全を守る力となる監視カメラ用レンズや生産・設備の検査に使用されるFA／マシンビジョン用レンズなどグローバルな市場のニーズを捉えた製品の開発・販売を行っています。また、世界的にも問題になっている人手不足、労働力不足解消に少しでも貢献できるよう、発電所や機器・設備などにおける点検・監視の無人化、省人化に貢献していきます。

技術と製品

監視

- **メガピクセル バリフォーカルレンズ**
  高解像度、高コントラスト性能により、メガピクセルカメラの性能を最大限に引き出す、超高解像度バリフォーカルレンズ
- **単焦点レンズ**
- **カメラ組み込み用レンズ**

技術
Technology

70年以上にわたり培ってきた光学技術

可視光線から赤外線を活用した製品開発・量産・販売

その他

- **SWIRレンズ**
- **カメラモジュール**

FA

- **産業・マシンビジョン用 メガピクセル 単焦点レンズ**
  高画質が求められる画像処理用の超高性能単焦点レンズシリーズ
- **産業・マシンビジョン用 単焦点レンズ**
  高画質が求められる画像処理用の単焦点レンズシリーズ
- **SWIR用単焦点レンズ**
  可視光領域から近赤外領域まで撮影可能な単焦点レンズ

＋

世の中のニーズ

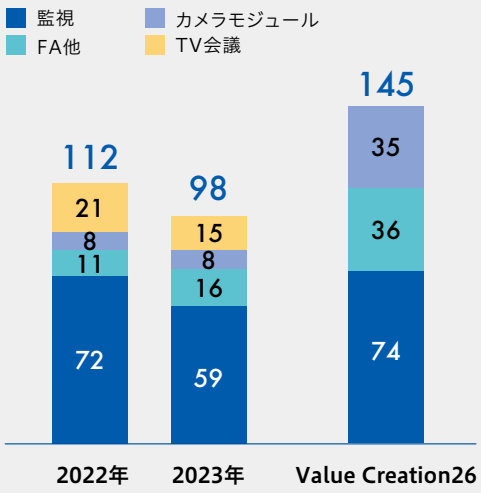
監視分野においては高精細カメラの需要にともない、レンズにおいても高性能・高品質化が求められているため、それに応じたレンズの開発を行います。また省人化、無人化、自動化が求められていることから、当社のFA／マシンビジョン用レンズ、SWIRレンズや遠赤外線カメラモジュールを用いて、スマート農業における育成管理の軽減や、熟練作業者のみができる五感に頼った検品作業の効率化、バイオマス発電所における熱監視など、社会問題解決に貢献できると考えています。

業績サマリー

中国のウィズコロナ政策への転換後の市場回復が鈍く、プロジェクト案件の停滞や開発の後ろ倒しなどの影響があったほか、半導体不足の緩和などによる在庫の適正化を図る動きもみられ、出荷減となりました。
利益面においては減収による粗利減に加えて、販売不振による開発費用の回収遅れ、および、今後の売上増を見込んだ開発費用、試作費用の増加などにより、約50%の大幅減益となりました。

売上高

（単位：億円）



次期ビジネス分野創出に向けた取り組み

当社の光学製品の特長は、「可視光線」にとどまらず「赤外線」領域まで及ぶことです。監視&FA事業においてはこの特長を活かし、技術戦略で掲げている“撮る”から“測る”へと事業領域を広げていきます。例えば、赤外線の一領域である短波赤外線光（SWIR）は、照射することで物質の吸収特性と反射特性の違いによって、識別検査をすることが可能です。当社のSWIRレンズは、SWIRの特性である、水分量検知や異物を識別する能力を活かし、農業における出荷作業の自動化、簡易化を図ることが可能となります。

また、「長波赤外光（遠赤外線）」の熱を測るという特性を活かした遠赤外線カメラモジュールは、発電所での設備の温度監視や鶏舎での死亡鳥の早期発見に役立っています。

前期の成果と今後の戦略

監視分野においては、レンズの高性能化が進んでいることから、画像の高精細化が進み、高性能・高品質な製品の需要が拡大しています。これを踏まえ、当社は4Kを含めた高付加価値製品の開発に注力しています。FA分野においては、2023年から取り組んできたラインアップの刷新と拡充を行い、新たにOEM案件の開発に注力することができました。今後の成長が見込まれる遠赤外線モジュールにおいては、2022年までに開発完了した機種の本格発売が開始されるのと同時に、2024年以降に発売する予定の新規カメラモジュールの開発にも着手しています。

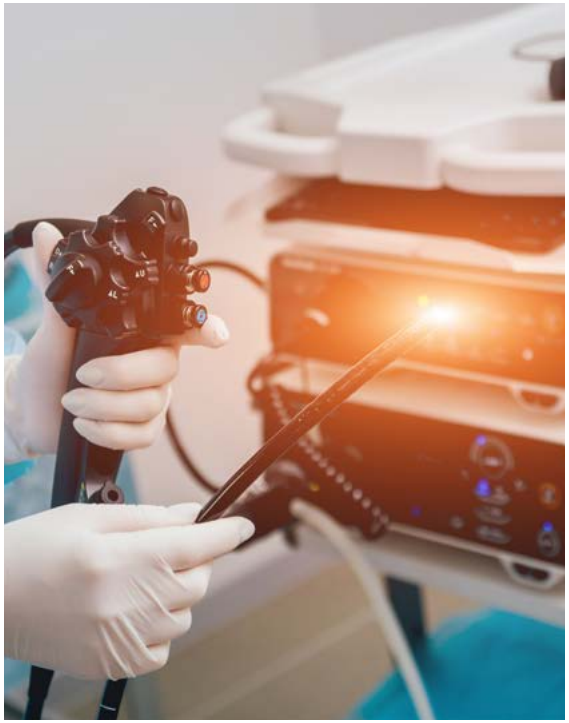
今後、監視分野においては年々需要が高まっている高精細カメラに対応できるレンズの開発に注力するほか、FA分野ではラインアップの刷新が完了した新製品の販売を強化していきます。同時に両分野における主要メーカーとの関係維持・強化にも取り組みます。さらに、カメラモジュールビジネスにおいてはアメリカ国防権限法（NDAA）を遵守した開発の展開を強化するとともに、OEM機種の開発に継続的に取り組んでいきます。

新技術または今期のトピックス

小型遠赤外線カメラモジュールにおいては、温度モニタリング向けの機能アップを図り、バイオマス発電所の燃焼タービンにおける異常温度の検知や生産設備関連である配電盤管理、そして、生産用制御管理やホットメルト検査などまさに温度を“測る”技術を発展させ、社会課題解決の貢献へとつなげていきます。

モビリティ＆ヘルスケア、その他事業

モビリティ＆ヘルスケア事業は「安全な暮らしと健康を」をテーマに、自動運転化が進む自動車分野における「車の眼」として、低侵襲化が進む医療分野では「医師の眼」として、当社の製品・技術は人々の安心・安全や健康に貢献しています。



技術と製品

モビリティ

- **センシング用レンズ**
  カメラで撮影したデジタル画像をもとに、車両や歩行者、交通標識などを認識して的確に自動車を制御する
- **周辺・後方視認用レンズ**
- **ヘッドライト用レンズ**
- **LiDAR**
  レーザ照射に対する散乱や反射光を測定することで、物体までの距離を測る光センサー

技術
Technology

光学開発技術
レンズ加工技術
コーティング／フィルタ技術

その他

- **ドローン用レンズ**
- **コンパクトデジタルカメラ用レンズ**
- **ビデオカメラ用レンズ**

ヘルスケア

- **硬性内視鏡用レンズ**
  先端が直径5mm-101mm程度の筒状のレンズで形成された内視鏡。多くが金属製の筒で構成
- **蛍光フィルター**
  蛍光ガイド手術に用いられており、ガン組織などを光らせ識別する。波長ごとに光の透過と遮断をコントロールすることができる光学フィルタ

＋

世の中のニーズ

「車載」と「医療」は安全と安心が共通のテーマであり、人命にかかわる重責のある分野です。「車載用レンズ」においては交通事故の低減はもちろんのこと、自動運転の拡大にともない、複雑で緻密な制御が求められる「車載センシングカメラ」として非常に重要な存在になってきています。また、「医療」については、患者に負担をかけない低侵襲医療が進み、内視鏡による手術の増加やロボットによる遠隔手術など、医療の高度化が求められています。当社の強みである光学技術を活かせる領域と確信し、必要とされる方々に提供していきます。

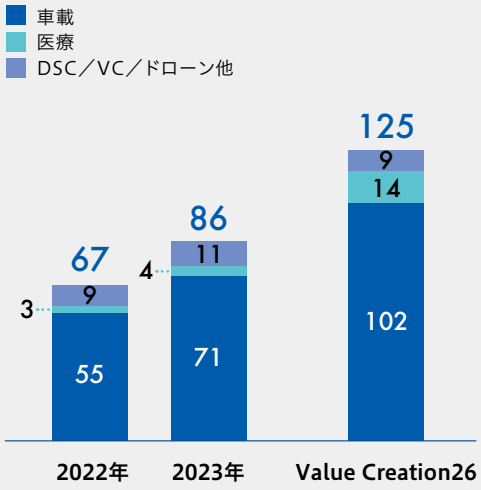
業績サマリー

車載事業においては、在庫調整の影響が想定よりも早く解消し、結果的には約30%の大幅増収となりました。また搭載義務化等の法規制の後押しがあるビュー用途、ADASの進化により搭載範囲の広がりを見せるセンシング用途を中心に、売上を伸ばすことができました。

そして育成分野の医療においても、製品ラインアップの増加にともない、約40%の大幅増収を果たすことができました。

売上高

（単位：億円）



次期ビジネス分野創出に向けた取り組み

「車載」においては、レベル3以上の自動運転機能の実現やADASの進化にともない車載センシングカメラの高画質、高耐久、高耐熱等が求められています。特に高い描写力が必要とされるセンシングカメラ用レンズにおいては、遠くのものを認識する高解像度レンズや広い範囲を捉える広角レンズの実現、夜間でも車両や歩行者などを認識できる大口径レンズの実現、薄い白線を認識する高コントラストレンズの実現などが必須であり、様々なカテゴリで培ってきた光学技術を駆使し、これらを実現していきます。

また「医療」においても、既存の硬性内視鏡レンズのラインアップ強化や、手術顕微鏡やライフサイエンス分野での事業創出に向けた取り組みを強化していきます。

前期の成果と今後の戦略

主力の車載事業において、急速に進む安全運転支援システム（ADAS）の普及による旺盛な需要を背景に、センシング用途を中心に好調を維持し、3期連続での2桁増収を成し遂げることができました。また医療事業においては、事業の本格的な立ち上げ、そして商品ラインアップの拡充により着実な成長を果たしました。

一方で、技術テーマは進展したものの、次期中計での事業化の目途を立てるところまでには至らなかったことは、課題として捉えています。今後は車載事業、医療事業のさらなる成長を図り、新規事業の創出を加速させていきます。2026年の数値目標としては、売上高は2023年比で約1.4倍となる125億円を目指します。営業利益は新規事業創出のための先行投資加速などもあり利益率が低下するも、利益率13%以上は維持し、増益を確保します。

新技術または今期のトピックス

車載分野では高品質な量産を実現する品質保証や生産体制をベースに、高画素化、高い信頼性の要求といったニーズに対応するための要素技術開発に努め、二桁成長を継続し、売上高80億円への成長を見込み、受注拡大を図ります。

また育成分野の医療においては、当社の強みである極小径レンズや薄膜技術などを活用し、低侵襲を実現する硬性内視鏡分野や、手術精度向上を担う蛍光ガイド手術においてガン組織の識別に波長ごとに光の透過をコントロールすることが可能な光学フィルター「ノッチフィルター」の展開などを進め約80%の増収を目指します。